

福島県水稲オリジナル品種「里山のつぶ」の栽培法

福島県農業総合センター作物園芸部稲作科

1 部門名

水稲—水稲—施肥法

2 担当者

新妻和敏、渡邊和弘、佐久間祐樹

3 要旨

中山間地向けオリジナル品種「里山のつぶ」において、一等米品質、玄米タンパク率含有率 6.4%以下の玄米を生産するための施肥量、刈り取り時期及び生育目標値を提示する。

- (1) 刈り取り適期は、青未熟粒の減少や白未熟粒の発生程度、検査等級の推移から出穂後の積算気温 1,000～1,250℃を目安とする。なお、刈り取りは籾の黄化率 80%を確認してから行う(表1)。
- (2) 窒素施肥量の増加に伴い収量も増加するが、同時に玄米タンパク率含有率も高まる。玄米タンパク率含有率 6.4%以下となる収量水準は 65～70kg/a である。この収量水準を達成する施肥量は基肥窒素 0.6～0.8kg/a、追肥は幼穂形成始期の茎数・葉色を確認して目標値以下の場合に窒素 0.2kg/a を施用する(図1、表2)。
- (3) 幼穂形成始期の目標生育量を確保するための移植1ヶ月後の葉色は SPAD 値で 38～42 である。

表1 出穂後の積算気温と玄米品質

積算気温 (°C)	整粒 歩合 (%)	胴割粒 割合 (%)	白未熟 粒割合 (%)	青未熟 粒割合 (%)	検査 等級 (1-10)		
-	900	85.0	0.1	2.3	8.6	5.7	
900	-	950	85.9	0.2	2.8	7.8	4.0
950	-	1000	87.3	0.1	3.6	5.8	3.1
1000	-	1100	87.6	0.1	5.0	3.8	2.9
1100	-	1150	89.4	0.7	4.5	2.5	2.8
1150	-	1200	87.1	2.5	5.1	1.6	2.4
1200	-	1250	82.2	5.1	6.1	0.8	2.7
1250	-	1300	81.7	3.9	8.6	1.3	3.5
1300	-	1350	77.2	5.6	11.3	0.6	4.3
1350	-	-	80.3	4.0	11.1	0.3	5.3

※平成25年、奨励品種決定調査ほ。

※整粒歩合～青未熟粒割合は穀粒判別器(サタケRGQI20A)による分析値。

※検査等級は、JA郡山市農産物検査機関による10段階評価。

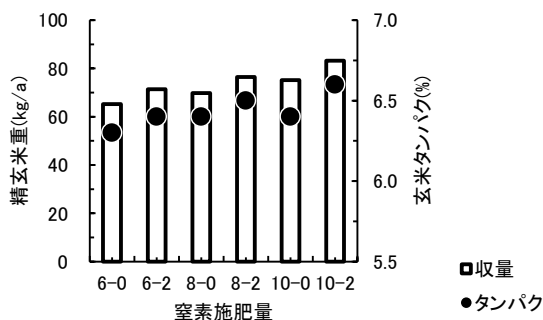


図1 窒素施肥量と収量、玄米タンパク質含有率の関係
※窒素施肥量は基肥—追肥で単位はkg/10a、平成28年、猪苗代

表2 里山のつぶの生育目標値(暫定値、2016年)

時期	項目	目標値
移植1ヶ月後	葉色(SPAD502値)	38～42
幼穂形成始期	茎数(本/㎡)	500～600
	葉色(SPAD502値)	36～42 (40～42の場合は、追肥しない)
成熟期・収穫期	玄米タンパク質含有率(%)	6.4以下
	検査等級	1等
	精玄米重(kg/a)	65～70
	登熟歩合	85～90
	穂数(本/㎡)	450～500
	籾数(×100粒/㎡)	300～330

※玄米タンパク質含有率、精玄米重は水分15%換算

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成25年度～28年度
- (2) 研究課題名 奨励品種決定調査
県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成26年度普及に移しうる成果 中山間地向け良質良食味水稲「福島30号」の育成